

資料

1 第4章-1「Plan」(p16)と関連

今養版キャリアプランニングマトリックス・・・p27

2 第4章-2「Do」(p17)と関連

本校のマトリックスと学年・学科経営案のつながり・・・p28

本校のマトリックスと1学年の作業日誌反省項目のつながり・・・p31

3 第4章-2「Do」(p17)と関連

本校のある单元における「单元指導計画」・・・p32

本校のある授業における「学習指導略案」・・・p33

4 第4章-3「Check」(p21)と関連

本校の生単の「单元記録表」・・・p34

本校の作業の「記録・評価様式」(各学科)・・・p35

今養版キャリアプランニングマトリックス（試案・平成25年3月現在）

指導観点	観点のの中身(解説)	指導の柱	1 学 年 段 階 (学びを通して気づく・知る)	2 学 年 段 階 (将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)	3 学 年 段 階 (将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)
心と体	・元気 ・体力 ・健康 ・食生活 ・睡眠・休養 ・規則正しい生活 ・ストレスコントロール	心身の健康	●健康でたくましい心と体の必要性に気づかせ、身につけることができるよう指導する。	●自らの心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持できるよう指導する。	●卒業後の生活を見据え、自ら心と身体の健康が保てるよう、望ましい生活を組み立てる力を育てる。
		基本的生活習慣の確立	●生活リズムを整え、望ましい食生活や規則正しい生活ができるよう指導する。	●自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができるよう指導する。	
自己理解	・自分の長所や課題を見つける力 ・他者からの評価を受け入れる力	長所・課題の理解	○自分の長所や課題に気づくことができるよう指導する。	○自分の長所や課題を受け入れるとともに、自己肯定感を持つことができるよう指導する。	○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、自分らしさを持てるよう指導する。
		他者からの評価の受容	○他者から受けた評価に、耳を傾ける気持ちを育む。	○他者から受けた評価を受け入れる気持ちを育む。	○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方にかすことができる力を育てる。
職業	・責任感 ・向上心 ・自己心 ・実行力 ・職業理解・分析能力 ・働く意識 ・働く喜びを知る ・将来の目標を立てる力 ・将来の目標に向けて課題を解決する力	働く態度・能力	●与えられた仕事の意味を理解して時間いっぱい集中し取り組めるよう指導する。	●手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組む事ができる力を育てる。	●自ら仕事の工程や課題を理解し、効率よくやりとげる力を育てる。
		職業理解	●身の回りのいろいろな仕事について、社会との関わりやその仕事に求められる能力などを考える力を育てる。	●自分の適性がわかり、将来の職業について具体的に考えることができる力を育てる。	●職業生活の中にやりがいや生きがいを見だし、前向きに自己の未来を設計する意識や社会の一員である自覚を育てる。
自己内省	・集中力 ・持久力 ・持続力 ・忍耐力 ・積極性 ・自主性 ・責任感 ・決断力 ・前向きである ・様々な物に興味を持つ ・謙虚な心 ・反省の心 ・感謝の心	物事に対する意欲	○時間いっぱい集中して学習する意識を持ち、目標を達成しようとする気持ちを育む。 ○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを育む。	継続 →	○自らの課題解決に向け、素直な気持ちで物事に取り組む姿勢を育てる。 ○他者への感謝の心を持ち、それを表現する姿勢を育てる。
		課題を解決しようとする心	○成功や失敗を繰り返しながら反省を積み重ね、他者の意見も受け入れながら、自分の気持ちや考えを整理する力を育てる。 ○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢を育てる。	継続 →	
知識・技術	・公共交通機関の利用 ・金銭管理 ・職業に応じた知識・技能 ・読み書き計算 ・常識 ・マナー ・身だしなみ ・礼儀 ・ルール ・整理整頓	社会の仕組みなどの知識・技術	●集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる生徒を育てる。	●社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる生徒を育てる。	●社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけ、社会の一員として生活できる力を育てる。
		読み書き計算などの知識・技術	●金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な基礎的知識が身につくよう指導する。	●身につけた知識を、日常生活で生かすことができる生徒を育てる。	●身につけた知識を応用し、社会の中で生きをいく力を育てる。
コミュニケーション	・声の大きさ ・あいさつ・返事 ・報告・連絡・相談 ・言葉遣い ・話す・聞く ・協調性 ・人づきあい ・他者理解	自分から相手に発信	○場や状況に合わせた声の大きさと、あいさつ、返事・報告ができる力を育む。	○あいさつや返事、簡単な敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表現能力が高まるよう、日常的に指導する。	○その場に応じたあいさつ、返事・報告をする力と、相手の人権を尊重するような適切な言語能力を育てる。
		相手の話を聞いて判断	○相手の話を最後まで落ち着いて聞くことができる力を育む。	○必要な支援を他者に求めることができる力を育む。	○解決出来ない問題に対して、地域の中で適切な相談相手を選んで支援を求める力を育てる。
		相手を受け入れ、自らそこに参加する	○相手の考え・気持ちを受け入れる力や集団に合わせる力を育てる。	○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる力を育てる。	○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を形成できる力を育む。
応用力	・洞察力 ・判断力 ・理解力 ・計画性 ・意思決定 ・柔軟性 ・効率性 ・情報収集 ・情報活用 ・取捨選択能力 ・自己統制力 ・危険回避 ・協力 ・余暇の充実	意思決定	●TPOに応じて何ができるか、何をすべきかの選択肢を与え、その意味を理解させ、選択していける(判断する)力を育てる。	●TPO、自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をできる力を育む。	●卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる力を育む。
		将来設計	●目標を達成するためには工程があることを理解させ、与えられた計画や工程に取り組ませ、習慣化できるよう指導する。	●家庭生活・学校生活に必要な習慣の確立を目指し、職業生活に活かす力を育む。	●社会生活・職業生活等に必要な習慣の形成に向けた指導をするとともに、余暇の活用等を図り、前向きに自己の将来を設計する力を育む。
		情報活用	●学校・寄宿舎・地域社会の中には様々な活動があることを、体験を通じて理解できるよう指導する。	●自らの興味のある活動や職業等に関して、様々な情報を収集し、自ら活用できる力を育成する。	●希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用できる力を育成する。
		人間関係	●集団活動に参加し、他者と協力することができる力を育む。	●集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる力を育む。	●集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していく力を育む。
感性	・発想力 ・表現力 ・感受性	感受性	○事象や人物によって様々な感じ方・とらえ方があることを知り、経験や疑似体験を通じてその価値に気づいたり認めたりできる心を育む。	継続 →	○事象や人物によって様々な感じ方・とらえ方があることを理解した上で、柔軟に物事を受け入れる心を育む。
		表現力	○真・善・美として感じたことを言葉・造形・音楽・行動などで表現できる力を育む。	○真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて言葉・造形・音楽・行動などで適切に表現できる力を育む。	○卒業後の豊かな生活を目指し、真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて適切に表現できる力を育む。

学校教育目標の達成

自希豊
 ら望か
 判にな
 断向心
 しかと
 行つ健
 動てや
 す努ら
 かな力
 生ず体
 る生徒
 をつく
 る生徒

このマトリックスは、平成24年度の校内研究において、研究推進委員会、学年部会、学科部会が検討を重ねた、最終的に結果まとまった完成版です。これは各学年段階の指導方針として捉えていただき、これをもとに授業・指導・支援していただくように授業・指導・支援していただくようお願いいたします。しかし、日頃の教育実践等により、再度検討が必要になることも考えられます。そのため「試案」としています。検討の必要性を感じたら、研究推進委員会に連絡をお願いいたします。

資料2－（1）本校のマトリックスと学年・学科経営案のつながり

～学年経営案～

いくつかある項目から抜粋しましたが、マトリックスの各学年段階に沿って系統的な指導を行うように計画されています。

○ 日常生活の指導

- 1 学年：あいさつ、言葉遣い、身だしなみなどの基本的な生活習慣を身につけさせる。
- 2 学年：自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけられるよう指導する。
- 3 学年：卒業後の生活に必要な基本的な生活習慣の定着を図る。

○ 生活単元学習

- 1 学年：家庭生活・社会生活において必要となる基礎的な知識・技能・コミュニケーション能力を習得させる。
- 2 学年：社会の一員として必要なコミュニケーション能力や、生活するための知識・技能を指導する。
- 3 学年：自分で考え、進んで活動し、周囲を認め、仲間と協力する姿勢を育てる。

○ 作業学習

- 1 学年：働く意味や喜びを理解させ、働くために必要な基礎的な知識・技術・態度を身につけさせる。
- 2 学年：働く意義を理解させ、社会人として必要なコミュニケーション能力・態度を育てる。
- 3 学年：卒業後の「働く生活」を意識し、働く意義を理解させるとともに、実社会で働くために必要な態度及びコミュニケーション能力を育てる。

○ 課題学習（国語・数学）

- 1 学年：日常生活に必要な国語、数学的な基礎的な知識の定着を図る。
- 2 学年：社会生活に必要な国語、数学的な基礎的な知識を身につけさせるとともに、それを生活の中で活用する力を育てる。
- 3 学年：社会生活に必要な国語、数学的な基礎的な知識を身につけるとともに、身につけた知識を生活の中で活用する力を育てる。

マトリックスの各学年段階にある文言を、各学年の生徒の実態に合わせて修正を加え、上記のような目標となりました。あまり段階的になっていないように見える部分がありますが、それはこのように実態に合わせているからです。

～学科経営案～

マトリックスができる前からあった「指導の重点」に、マトリックスの記述（観点）が当てはまるかどうか、各学科で検討していきました。その結果、多少の修正を加え、マトリックスに沿った「指導の重点」が各学科できあがりました。

【 】は、マトリックスの観点です。

○ 産業科

- (1) 正しい手順や方法で作業を行い、集中力や作業に必要な体力などの基本的な能力を身につけさせる。【職業】
- (2) あいさつ、返事、報告などの作業をするのに必要な基礎となる力を身につけさせながら、仲間と協力して取り組む姿勢を育てる。対応の仕方など基本的な行動様式を育成する。【コミュニケーション】【職業】
- (3) 健康・安全指導を徹底すると共に、整理整頓、清掃などの習慣を育成する。
【心と体】【知識・技術】
- (4) 生産から販売、納品までの流通過程の学習を通し、流通の仕組みを体験させ働く喜びや意欲の向上を図る。【知識・技術】
- (5) 「作業強化日」「現場実習」を通し、自ら課題を理解すると共に課題解決への意欲を高める。【自己理解】【自己内省】【職業】
- (6) 販売学習などを通し、実践的な態度や勤労意欲を育成する。【職業】【知識・技術】

○ 農業科

- (1) 自立に必要な基礎的学力や社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけさせる。【知識・技術】
- (2) 栽培から販売までの過程を学習することを通じ、やりがいや生きがいを見いだし実践的な労働意欲を高める。【職業】
- (3) 整理・整頓・清掃の生活習慣を身につけるとともに、健康・安全に気をつける。
【心と体】
- (4) 姿勢の保持、集中力、持続力、集団行動などの基本的作業態度を身につける。
【職業】
- (5) 「作業強化日」「現場実習」を通して事故の課題を理解し、卒業後の職業自立に向けて自ら課題解決をしようと努力する姿勢を身につける。【自己内省】
- (6) 様々な作業体験を通して自己の理解力を高め、卒業後の職業生活への見通しを持たせ、自立への興味・関心を持つ。【自己理解】
- (7) ホームルームや他教科との関連を図りながら、社会人として必要なコミュニケーションの取り方を身につける。【コミュニケーション】

○ 生活家庭科

(1) 縫工、リサイクル、紙漉、環境整備等の作業を通して興味関心の幅を広げ、生活経験を豊かにすると共に、働くことの意義や喜びを理解する気持ちを育てる。

【職業】

(2) 現場実習・作業強化日などを通して自己の長所を知り課題を理解し、他者から受けた評価を受け入れる気持ちを育てる。【自己理解】

(3) 働くために必要な態度・習慣、集中力や注意力、課題解決に向けて努力する姿勢を育てる。【自己内省】

(4) 作業学習や日常生活に必要な基本動作及び巧緻動作、協応動作の向上を図ると共に、社会のルールやマナー、礼儀を身につける力を育てる。【知識・技術】

(5) 安全に作業が取り組めるよう、道具等の取り扱いに気をつける力を育てる。

【知識・技術】

(6) ホームルームや他教科との関連を図りながら、望ましい生活習慣や健康を維持できる力を育てる。【心と体】

(7) 場に応じた挨拶、返事・報告をする力や、必要な支援を他者に求めることができる力を育てる。【コミュニケーション】

マトリックスの8つの観点全てを網羅しているわけではなく、重点的に指導する観点のみ文章化しています。

なお、各学科に入学してくる、もしくは在籍している生徒の実態に合わせて立てられた目標ですので、学科ごとの系統性はありません。

また、各学科に在籍する生徒の実態が異なるため、注目したマトリックスの観点は同じでも、こういったところを重点とするかも各学科によって異なります。

資料２－（２） 本校のマトリックスと１学年の作業日誌反省項目のつながり

過去２～３年分各学科の作業日誌・実習日誌反省項目を洗い出し、マトリックスに照らし合わせてまとめました。

知識・技術	社会の仕組みなどの知識・技術		●集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる生徒を育てる。	
	分類	観点	前期段階・1年日誌	後期段階・2年日誌
	マナー	時間・時刻	最初から最後まで作業に参加することができた。 時間を守って行動できた。	－ 時間を意識して、素早く行動することができた。
服装・清潔		身だしなみを整えることができた。手や服をきれいにできた。	身だしなみや清潔を意識して行動できた。	
準備		自分で持ち物や仕事の準備ができた。	自分から準備や片付けを正しく行うことができた。	
片付け		自分できれいに道具の片付けや掃除ができた		
コミュニケーション	自分から相手に発信		○場や状況に合わせた声の大きさに、あいさつ、返事・報告ができる力を育む。	
	相手の話を聞いて判断		○相手の話を最後まで落ち着いて聞くことができる力を育む。	
	相手を受け入れ、自らそこに参加する		○相手の考え・気持ちを受け入れる力や集団に合わせる力を育てる。	
	分類	観点	前期段階・1年日誌	後期段階・2年日誌
	コミュニケーション	挨拶・返事	元気よく、あいさつ・返事をすることができた。	→〃
報告		終わったことを報告することができた。	→〃	
質問		わからないことを質問することができた。	→〃	
対話		相手を見て、ていねいな言葉遣いで話すことができた。	失礼のない態度で、正しい敬語を使って話すことができた。	
職業	働く態度・能力		●与えられた仕事の意味を理解して時間いっぱい集中し取り組めるよう指導する。	
自己内省	物事に対する意欲		○時間いっぱい集中して学習する意識を持ち、目標を達成しようとする気持ちを育む。 ○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを育む。	
	分類	観点	前期段階・1年日誌	後期段階・2年日誌
	意欲・態度	集中力	集中して仕事をすることができた。	時間いっぱい集中して仕事を続けることができた。
		素直さ	指示や注意を素直に聞くことができた。	→〃
応用力	意思決定		●TPOに応じて何ができるか、何をすべきかの選択肢を与え、その意味を理解させ、選択していける（判断する）力を育てる。	
	将来設計		●目標を達成するためには工程があることを理解させ、与えられた計画や工程に取り組ませ、習慣化できるよう指導する。	
	人間関係		●集団活動に参加し、他者と協力することができる力を育む。	
	分類	観点	前期段階・1年日誌	後期段階・2年日誌
	技能	指示理解	言われた通りに仕事をすることができた。	指示を正しく理解して仕事を進めることができた。
丁寧さ		ていねいに仕事をすることができた。	正確に仕事を進めることができた。	
手早さ		－	手早く仕事を進めることができた。	
安全・衛生		安全や衛生に気をつけて仕事をすることができた。	→〃	
	応用	協力	仲間と助けあいながら仕事をすることができた。	仲間と協力して仕事を進めることができた。
判断		－	状況を判断して適切に仕事を進めることができた。	

以上を よくできた、だいたいできた、努力が必要、かなり努力が必要 の４段階で自己評価させた上で、指導者も評価する

今日の反省と次回の目標を書かせ、目標が達成できたかどうかとも自己評価させる（指導者も評価する）

評価項目を数えると１５項目あるが、各学級の実態に合わせて観点を抽出し日誌を作成する。実習日誌では、１５項目全て取り上げる。

資料３－（１）本校のある単元における「単元指導計画」

平成２６年度 １学年 総合的な学習の時間 単元指導計画

単元名	働く生活をイメージしよう	期間・時数	平成 26 年 5 月 21 日（水）・7 月 23 日（水）計 10h
目 標	1 働く先輩の様子を見て、働く上で大切なことを自分なりにまとめることができる。 2 進路決定までの流れや将来の生活例を知り、自らの進路を考えることができる。		
日 時	学 習 内 容		教室・備考
5 月 2 1 日（水） 4 h	【全体】・働く人を見てみよう （様々な職種とその仕事内容、魅力、苦労等を聞き、働くために必要な力について考える）		技術室
2 6 日（月） 3・4 h	【全体】・職場見学へ行こう （働くために必要な力をまとめ、2 年生の実習先を見学してそれを確かめる。その他の目的、見学先、見学の際のポイントやマナーについても知る。）		技術室
2 7 日（火） 1～4 h	<校外学習行事> 職場見学		別途参照
2 8 日（水） 4 h	【学級】・職場見学の振り返り・レポート作成 （メモをもとに、様式に従ってレポートを作成する）		各学級教室
6 月 2 日（月） 3・4 h	【全体】・職場見学レポート発表・まとめ （レポートを発表し、要点を整理・共有する）		視聴覚室
3 日（火） 2・3 h	【全体】・進路先と決定までの流れを知ろう （資料をもとに上記について知り、要点をまとめる）		視聴覚室 講師：上村 T
5 日（木） 5 h （学校説明会の裏）	【全体】・働く先輩（卒業生）たちの様子を知ろう （資料をもとに上記について知り、要点をまとめる）		視聴覚室 講師：上村 T
7 月 2 3 日（水） 4 h	【全体】・1 学期のまとめと 2 学期について （1 学期の学習を振り返り、2 学期の見通しを持つ）		視聴覚室

マトリックスとの関連（網掛けが重点）

観点	指導の柱	指導方針（段階はすべて 1 学年段階）
職業	職業理解	① 身の回りのいろいろな仕事について、社会との関わりやその仕事に求められる能力などを考える力を育てる。
自己内省	物事に対する意欲	② 自主的・積極的に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを育む。
コミュニケーション	相手の話を聞いて判断	③ 相手の話を最後まで落ち着いて聞くことができる力を育む。
	相手を受け入れ、自らそこに参加する	④ 相手の考え・気持ちを受け入れる力や集団に合わせる力を育む。
応用力	意思決定	⑤ TP0 に応じて何ができるか、何をすべきかの選択肢を与え、その意味を理解させ、選択していける（判断する）力を育てる。
	将来設計	⑥ 目標を達成するためには工程があることを理解させ、与えられた計画や工程に取り組ませる（以下略）。
	人間関係	⑦ 集団活動に参加し、他者と協力することができる力を育む。

資料3－（2）本校のある授業における学習指導略案

総合的な学習の時間「職場見学」単元 学習指導略案 ①

題 材 名	働く人を見てみよう	生 徒	1 学年全員
日 時	平成26年5月21日(水) 4校時	場 所	技術室
目 標	○ 仕事の種類やその内容、魅力、苦労などを知ることができる。 ○ 働くために大切なことを自分なりに考えることができる。		
指 導 者	MT:矢倉 ST:石黒 T、初山 T、小林和 T、山口 T、泉谷 T		

学 習 内 容	学 習 活 動	教材・教具	留 意 点
1 あいさつ	・イスと机を出して学級ごとに座る。 ・代表の号令であいさつをする。		・不足分は生徒会室と美術室から ・代表者を募る。
2 本時の内容	・本時の内容を知る。		
3 単元オリ	・この単元のねらいと学習内容について知る。	学習予定表 (授業後掲示)	
4 仕事の種類 ＜本時の重点＞	・仕事の種類ごとにその内容、魅力、 苦労などをワークシートに書く。	PPT・TV ワークシート①	・MT は PPT を使いながら説明し、 適宜質問を受け付ける。ST は必要 に応じシートへの記入を補助。
5 働くために 大切なこと	・仕事面、生活面それぞれでどんなこ とが大切かを考え、付箋に書く。 (いくつ書いてもよいが読める字で) ・書き終えた者から黒板に貼る。	ワークシート② 付箋	・ST は必要に応じて生徒をサポート。 ワークシートのヒントも参照 させる。 ・MT は貼りに来た生徒に声かけ し、類似の内容は固めて貼らせる。
6 まとめと 次回予告	・貼られた意見を教師と確認する。 ・次回はこれらから、ポイントをまと めていくことを確認する。		・26日(月)3・4h 技術室 ＜これを次時の重点とする＞
7 あいさつ	・代表の号令であいさつをする。 ・イスを片付けて退室する。		・代表者を募る。 ＜黒板はそのままの状態にする＞

記録

--

心とからだの学習

2 年 農 業 科
〇〇 〇〇

班・係・役割など	性器についての話の回は、男子Mグループ
----------	---------------------

単元指導計画より 単元目標

①	自分のからだ、心を大切にできる気持ちを持つことができる。
②	思春期、二次性徴について理解することができる。
③	高校生としての男女交際のあり方について考えることができる。

個別の指導計画より 目標と手立て

目 標	・真剣に学習に参加することができる。 ・話を集中して聞き、指示や内容を理解して行動することができる。
手 立 て	学習の必要性を理解させ、目的意識を持たせ、意欲的に学習に向かう気持ちを持たせる。集中できる環境づくりや、指示の方法を工夫する。理解が難しい場合は個別に補足説明する。

記入者： 〇〇 〇〇

本単元において 本生徒の目標と手立て

目 標	・不要な発言をせず、真剣に学習する。 ・人間関係やコミュニケーションで気をつけるべき事項と、その理由を理解することができる。	評価 
	・不要な発言が多いときは静かにさせる。真面目な話であることを意識させる。（いずれも言葉がけ） ・「自分は どうしてる」「相手はどう思う」を考えさせることを通して、望ましい行動を理解させる。	○：達成 △：ほぼ達成 ×：未達成

学習の記録

【オリエンテーション～自己理解】 ・長所短所書けるが、よくペンが止まった。今自分は大人？子ども？の問いに「未成年」と回答。
【体(臓器含む)の部位、はたらき】 ・不要な発言や質問は1つ2つだったが、座席が両方生徒に囲まれたところだったからか、最初は指示を聞いてのプリント記入など全然できていなかった。臓器の説明になってくると耳を傾けているが、おもしろい言葉などにやや反応。
【性器、思春期、二次性徴】 ・プライベートゾーンのプリント配られると、挙手して読む。話は静かに聞いている。さわったら犯罪であることもわかっている？ ・それなりの言葉を聞くとふきだす。人の体についての勉強には興味があると言っている。常識的なことはわかっている。しかしその知識を活用するのがうまくできていない。 ・指導者の話をニヤニヤと笑いながら時々、“△△”と言って△△から反発を食らっていた。横があいていたので◇◇が座って勝手に話すことを止めた。異性への意識は薄いようだが、身だしなみがきちんとしている方に丸をつけていた。
【集団生活、人間関係】 ・人間関係図は◇◇と話しながら書いたり、自分で書いたりしていた。中学時代に固執傾向あり。友達ではなく「△△・××」と書いていた。 ・おつきあい話になると興味ないと言っているくせに人の発言等に反応しニヤニヤしだすので注意。ロールプレイは書いてなくても聞けば自分なりの答えがすぐ出てきたので書かせた。